

小鹿野町役場庁舎建設
基本設計・実施設計業務委託公募型プロポーザル
審査結果報告書

令和2年2月

小鹿野町役場庁舎建設
基本設計・実施設計業務プロポーザル審査委員会

1 本プロポーザルの実施目的

役場庁舎建設基本設計・実施設計業務を委託するに当たり、本公募型プロポーザルは、「小鹿野町役場庁舎建設基本構想（令和元年8月策定）」（以下「基本構想」という。）を踏まえ、町の木を使用した木造庁舎の検討及び優れた省エネルギー庁舎等の発注者の要求に柔軟に対応できる高い技術力、豊富な経験及び高い意欲等を有する設計者を選定することを目的として実施した。

2 審査経過

令和元年10月29日	第1回審査委員会（審査基準等の決定）
令和元年11月13日	公募型プロポーザル募集の開始
令和元年11月26日	参加表明書等の提出期限
令和元年12月5日	第一次審査の実施
令和2年1月21日	技術提案書の提出期限
令和2年1月28日	第2回審査委員会（プレゼンテーション・ヒアリング及び第二次審査の実施）

3 審査結果

令和元年12月5日に審査委員会において選定した5者から提出された技術提案書について、令和2年1月28日にプレゼンテーション及びヒアリングを実施し、慎重かつ厳正に審査を行った結果、次のとおり、受注候補者及び次席者を特定した。

受注候補者 香山壽夫 建築研究所
次席者 株式会社 プラスニューオフィス

4 審査委員会の構成

区分	氏名	役職等
委員長	大島 博明	小鹿野町事業推進アドバイザー ものづくり大学技能工芸学部建設学科名誉教授
副委員長	長谷川 伸一	小鹿野町副町長
委員	若林 昌善	埼玉県営繕・公園事務所長
委員	稗田 明弘	埼玉県熊谷建築安全センター所長
委員	鈴木 進	埼玉県木造建築アドバイザー
委員	吉田 登志幸	クラブヴォーバン監事
委員	井筒 肇	小鹿野町技監
委員	新井 昇	小鹿野町総務課長
委員	黒沢 彰	小鹿野町建設課長

5 審査講評

第一次審査では、参加申込書の提出のあった11社について、設計事務所の能力として、事務所の技術職員の1級建築士等の有資格者数及び受賞実績について審査した。また、配置技術者の能力として、管理技術者及び各主任担当技術者の保有資格、受賞実績、CPD取組状況について審査した。実施要領に基づき、第一次審査として5者選定した。

第二次審査では、5者から提出された業務実施方針及び5つのテーマに対する技術提案書について、プレゼンテーション及びヒアリングを実施した。

業務実施方針については、取組意欲、実施体制及び特に重視する設計上の配慮事項の観点から審査した。5つのテーマについては、提案内容的確性、独創性及び実現性の観点から評価を行い、業務見積書評価を加え、総合的に評価を行った。

各社とも高い取組意欲を持って提案して頂き、質の高い提案内容であった。

特に「ふるさとの個性を活かした小鹿野町の活性化に繋がる小鹿野町らしい庁舎」については、地元で製材可能な材寸で、施工や維持管理の担い手として地元の大工が参加できる方策が提案されるなど、豊富な木材利用実績、設計業務実績に基づく提案内容で各社とも優れた提案であった。

受注候補者として特定された「香山壽夫 建築研究所」の提案は、業務実施方針及び各テーマとも高い評価を得た。

特に、「業務実施方針」については、小鹿野町の森林資源を活用した町民にとって「大きな家」のような庁舎をつくり、まちづくりの契機とするという姿勢が評価された。

「安心安全な町民のための庁舎」については、木の特性を生かした純木造の安全で堅牢な建築をつくる提案が高く評価された。

「町民サービスの向上を目指した庁舎」については、「パサージュ」を中心としたわかりやすい空間構成の中で、執務ゾーンと町民利用ゾーンをわけながら、町民の集いの場を南北に配置し、町民にとって明るく親しみやすい提案が高く評価された。

「まちづくりと環境に調和した庁舎」については、小鹿野町のまちづくりの核となる「小鹿野ホール(議場)」及び町民の出会いと発見、交流の場となる「えんがわ」と「のきした」などの親しみやすい空間の提案が高く評価された。

次席者となった株式会社プラスニューオフィスの提案は、庁舎を貫く「ハナミチ」と名付けた直線状の動線空間に、窓口や様々な諸室を構成し、庁舎を分節化し、用途変更や減築などが対応可能なフレキシブルな庁舎を提案している。一方、分節化した建物間の取り合いが構造及び雨仕舞上の問題点として指摘されるなど不安要素として疑問が残った。また、業務見積金額の経済性については、高く評価された。